

## 平成 30 年度 第 1 回 男女平等推進市民会議 会議要録

日 時：平成 30 年 5 月 23 日（水） 18:30～19:45

会 場：庁議室

参加者：名取 はにわ会長・本田 純副会長・北原 裕貴委員・各務 豊委員・多功 美千代委員・有賀 千歳委員・飯島 裕子委員・山本 まゆみ委員・森山 義雄委員・坂東 正樹委員

事務局：生活文化課長・男女共同参画係長・男女共同参画係員・男女平等推進センターコーディネーター

### ○議題

- (1) 委嘱書及び任命書の交付
- (2) 会長、副会長の選出
- (3) 諮問書の交付
- (4) 諮問事項の協議等

#### ・議題 (1) 委嘱書及び任命書の交付

～市長より委嘱書及び任命書を交付する。委員が自己紹介を行う～

#### ・議題 (2) 会長、副会長の選出

～会長と副会長を互選により選出した～

#### ・議題 (3) 諮問書の交付

～市長より会長へ諮問書を交付する～

#### ・議題 (4) 諮問事項の協議

(東久留米市第 3 次男女平等推進プランの進捗状況評価について (平成 29 年度事業))

事務局：本日の会議では、これから進捗状況評価の作業をどのように進めていくかということについてご意見を頂き、今後の予定を決めていきたいと考えている。評価の方法としては、プランの各事業の担当課からの実績報告をもとに進捗状況評価をすることになる。評価の単位としては、第 3 次プランの中に大分類で目標が I から VI まであり、その目標の下に施策が複数ある。各施策の下には取り組みの方向というものが定められている。この区分で同じ方向に向かって取り組みを行っている課が幾つかあって、この取り組みの方向ごとに、担当ごとに 1 つの評価をして

頂くことになる。全部で83の評価をして頂くことになる。同じ取組みの方向に対して、さまざまな課がいろいろな事業を行っており、同じ目的を持った担当が連携していくということが重要で、そういうところにも注視して頂きたい。また、前回の評価では、どうしても報告書という紙ベースでの評価となるので、それだけでは分からない部分が多いとの意見もあり、ヒアリングを行い実態に即した評価を行えるようにしたいと考えている。次に評価の進め方としては、評価が83あるため、3つのワーキンググループをつくり、分担して進めていただければと考えている。1グループは目標ⅠからⅢ、2グループが目標Ⅳ、3グループが目標ⅤとⅥということで案として考えている。次にスケジュールとしては、6月中旬までに担当課より報告が提出され、それを取りまとめて7月中旬にワーキンググループで評価して頂き、8月中旬を目途に各グループの評価の確認をして頂くことになる。そこでヒアリングが必要であれば、9月下旬に行い、答申案を作成、10月下旬に答申案の修正・確認をして頂き、11月初旬の最終調整を経て11月中旬に答申という流れにできれば理想的と考えている。ただ、今回はヒアリングを初めて取り入れているため、各委員のご意見を伺いながら進めていきたい。

- 会 長：分かりにくいところもあると思われるので、質問があればお願いしたい。
- 委 員：目標ⅢとⅤについて、中身としてはかなり近い部分があると思われる。もしかしたら目標ⅢとⅤは同一部署が担当している面も多いのではないだろうか。そうすると、目標Ⅲは、目標ⅤとⅥと一緒にするという方法も有り得るのではないか。
- 事 務 局：目標Ⅲの部分は、確かに目標Ⅴと近い部分はあるが、担当課はすべて生活文化課で評価が3項目なので、案としてはこのようにしている。
- 会 長：では、原案でやってみて、今年の状況をみて来年のやり方を変えた方が良ければ変えるということによいだろうか。
- ～異議なし～

～3つのワーキンググループを編成、委員をグループ分けする～

- 会 長：今回の評価はこれまでのものと異なる点が1点ある。これまでは単課ごとに評価をしていたが、これからは、同一の方向に取組んでいる各課の連携についても少し評価をしないといけないという点である。そのことについて、事務局より説明をしてほしい。
- 事 務 局：例えば、目標Ⅰの「ワーク・ライフ・バランスの推進」の下に、施策2「市内事業所の働き方改革とワーク・ライフ・バランスへの取り組み推進」というものがあり、取り組みの方向として「市内事業所に向けた講座開催や好事例、助成制度などに関する情報提供」というものがある。これに関しては、「関係法令、各

種制度の周知と啓発」、「労働環境の改善に向けた市内事業所への情報提供と啓発及び課題解決」、「市内事業所における実践的取り組みの好事例の周知」、「ワーク・ライフ・バランスの推進活動への支援に関する情報提供」の4つの事業があり、産業政策課と生活文化課が行っている。内容として、それぞれの分野で行うこともあれば、連携して一緒にやると効果的なものもある。今回は、担当課にそのような点に留意しながら報告をしてもらうようにしている。評価の際は、それを見て、よく連携されているか、全体としてどうなっているか、関係性はどうかなど提言として書いて頂くということになっている。

○次回会議（ワーキンググループ）

7月（日程調整）